

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 特別活動

目標・人権教育のねらい

- ・ 自他の生命を尊重し、健康や安全に気を付ける態度を育む。
- ・ 豊かな心を持ち、互いのよさを認め合う態度を育む。
- ・ 自分と友達のよいところを見付けることができ、言葉に出して言えるようにする。

実施した内容

- ・ 生徒会を中心とした取組として、挨拶運動や人権の花（プランターづくり）、道教委主催の絆づくりコンクールへの参加など、校内だけで考えるのではなく、外部や地域との連携・協力を意識した活動を数多く展開した。
- ・ 「いじめ」「デートDV」と題して、幌延町人権擁護委員による人権教室を実施し、子供の人権についての理解を深めた。（1時間）

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・ 教科等横断的に3年間を見通した関連性のある取組を通して、生徒自身が人権教育の推進に係る工夫・改善に努めた。
 - ・ 事前にアンケート等を行い、学校生活全般に係る教育相談週間を年3回程度設けた。
- （関係機関との連携）
- ・ 幌延町人権擁護委員による人権教室の開催、スクールカウンセラーによるアドバイス

他教科との
関連

- ・ 社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・ 道徳科において、「いじめ」や「子供の権利」等について考える学習をした。

事業成果

- ・ 知識的側面：「いじめ・虐待に関心をもつ」と回答する生徒の割合が100%（+9.1）になった。
- ・ 価値・態度的側面：「自分のよいところを見つめ、それを伸ばそうとしている」と回答する生徒割合が90%（+5）になった。
- ・ 技能的側面：「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答する生徒の割合が100%（+2.2）になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等第1学年 技術・家庭
第3学年 総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 地域の高齢者との交流等を通して、共に生きていくために必要なことや、自分たちに何ができるかについて考えようとする意識を高める。
- ・ 高齢者の現状や課題、地方自治体の取組についての理解を深め、高齢者にとって、住みやすいまちについての考えを共有できる。

実施した内容

- ・ 地域には、どのような人が住んでいて自分や家族とのどのようなつながり、どのような関わりが大切かを考えた。（2時間）
- ・ 地域の一員として、地域の人々とどのように関わり、どのような取組を通して地域の方々の役に立つことができるかを考えた。（2時間）
- ・ 地域に出て、資源回収の活動の中で、地域住民と会話を通して交流を図った。（2時間）

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 教科書、新聞記事、町の広報誌等を活用し、地域で行われている活動について情報を集め、地域住民との関係性について図式化し、見える化する工夫を行った。
- (地域との連携)
- ・ 町内における資源回収の活動を通して、地域の高齢者との交流を図った。

他教科との
関連

- ・ 総合的な学習の時間における地域探究に係る内容の中で、高齢者施設の在り方について考える学習を取り上げた。

事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」と回答する生徒の割合が97.5% (+2) になった。
- ・ 価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5% (+10.8) になった。
- ・ 技能的側面：「相手の悩みや気落ちを、相手の立場になって受け止めることができる」と回答する生徒の割合が97.5% (+8.6) になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年 技術・家庭

目標・人権教育のねらい

- ・ 障害者との交流等を通して、共に生きていくために必要なことや自分たちに何ができるかについて、考えようとする意識を高める。
- ・ 障害者の現状や課題、障害者を支援している事業者や地方自治体の取組についての理解を深め、障害者にとって、住みやすいまちについて考えることができる。

実施した内容

- ・ 地域には、どのような人が住んでいて自分や家族とのどのようなつながり、どのような関わりが大切かを考えた。（2時間）
- ・ 地域の一員として、地域の人々とどのように関わり、どのような取組を通して地域の方々の役に立つことができるかを考えた。（2時間）

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ 教科書、新聞記事、町の広報誌を活用し、地域に行われている活動や実際に生徒自身が参加している活動について振り返った。
 - ・ 知的障がいに関わる取扱いについては、十分に配慮を講じた上で学習を計画し、主に身体に障がいをもった人々と関わる時の注意点について考える授業展開を行った。

他教科との
関連

- ・ 社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・ 保健体育科でパラスポーツや障害の有無に関わらない運動について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：「すべての人が大切にされなくてはならない」と回答する生徒の割合が97.5% (+2) になった。
- ・ 価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5% (+10.8) になった。
- ・ 技能的側面：「相手の悩みや気落ちを、相手の立場になって受け止めることができる」と回答する生徒の割合が97.5% (+8.6) になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

第3学年 総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・ウポポイ（民族共生象徴空間）や国立アイヌ民族博物館の見学をとおして、生徒自身がこれから歩いていく多様な文化が共存する人生について、「どんな価値観や生き方、文化を大切に生きていくか」を自分なりに考えられるようにする。

実施した内容

- ・事前学習で、生徒自身とアイヌの人々の生き方を対比させながら自分なりの考えをまとめた。
- ・国立アイヌ民族博物館では、「アイヌの人々がどんな歴史や文化の中で生きてきたのだろう、そして生きているのだろう」という課題を踏まえて見学し、振り返りで「わたし（生徒自身）は、どんな文化の中で生きているのだろう」と自分なりの考えをまとめた。（3時間）
- ・事後学習で、アイヌの人々と関わりの深い人物の生き方について振り返り、考えをまとめた。

工夫した点

- （指導上の工夫）
- ・事前学習ができるよう図書館等のアイヌの人々に係る書籍を教室内に展示した。
- ・生徒自身と「アイヌの人々」の生き方を対比させ、多様な文化の共存する人生を考えさせた。（関係機関との連携）
- ・国立アイヌ民族博物館の学芸員との連携を図り、事前にオンライン学習を行い、修学旅行でウポポイを訪問するに当たっての課題意識をしっかりとさせるようにした。

他教科との
関連

- ・社会科でアイヌ文化に係る内容について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている」と回答する生徒の割合が98%（+2.4）になった。
- ・価値・態度的側面：「様々な価値観を尊重しようとする」と回答する生徒の割合が97.5%（+4.1）になった。
- ・技能的側面：「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答する生徒の割合が100%（+2.2）になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

第2学年 特別の教科 道徳

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病について正しく理解し、誰もが嫌な思いをしない社会にするためには、どうしたらよいかを考えられるようにする。
- ・ハンセン病について理解を深めることにより、新型コロナウイルス感染症による差別と関連させ、差別を生まないようにするために何が大切なのかを考えられるようにする。

実施した内容

- ・「ハンセン病の向こう側」と題して、幌延町人権擁護委員による人権教室を実施し、ハンセン病の現状を知る。（1時間）
- ・ハンセン病に係る動画を見た後、岡山県長島愛生園を訪問した教員から、ハンセン病に対する差別の現状等について授業を実施した。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・人権教室終了後に、ハンセン病について振り返りができ、知識として残るように関連のある文献や参考資料を岡山県長島愛生園歴史館等から取り寄せた。
- (関係機関との連携)
- ・岡山県長島愛生園歴史館の木下学芸員と連携を図り、ハンセン病の理解のためのオンライン研修ができるように体制を整備した。

他教科との
関連

- ・社会科で基本的人権に係る内容について学習した。
- ・学級活動と関連させ、不安な気持ちが差別につながるということについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「人権の大切さについては、憲法や条約に示されていることを知っている」と回答する生徒の割合が98% (+2.4) になった。
- ・価値・態度的側面：「様々な価値観を尊重しようとしている」と回答する生徒の割合が97.5% (+4.1) になった。
- ・技能的側面：「学級のみならず周りの仲間たちと協力して活動することができる」と回答する生徒の割合が100%になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年 技術・家庭

目標・人権教育のねらい

- ・インターネットの利用者として被害に遭う可能性と対策を考えるとともに、情報を発信する側として加害者になる可能性もあることを知り、両方の視点から、より身近な問題として考えられるようにする。

実施した内容

- ・生徒のインターネットの利用状況を把握するとともに、動画教材や資料等を活用し、安全利用の仕方について、自分事として考え、対処法について理解を深めた。(2時間)
- ・PTAと生徒と一緒に学ぶ「情報リテラシー」に係る講演会を実施し、具体的な事例を通して、インターネットを利用する上での危険性について理解を深めた。(2時間)
- ・道教委主催の絆づくりコンクールのネットモラルに係るメッセージ部門に応募した。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・話合いの際に、マイナス面だけでなく、プラス面に目を向け、インターネットを効果的に活用するための方法を考え、今後の取組方法についてまとめた。
(家庭や関係機関との連携)
 - ・株式会社グリーやカプコンなどの企業と連携を図り、授業を実施した。
 - ・保護者と連携を図り、スマートフォンの利用に係る家庭でのルールを明確にした。

他教科との
関連

- ・社会科及び道徳科で基本的人権に係る内容について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「自分や他者の人権が侵害されたときに、そのような対処の仕方があるのを知っている」と回答する生徒の割合が77.5% (+17.5) になった。
- ・価値・態度的側面：「困っている人がいたら助けてあげることができると思う」と回答する生徒の割合が97.5% (+10.8) になった。
- ・技能的側面：「様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、扱うことができる」と回答する生徒の割合が100% (+8.7) になった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

北海道

学校名

幌延町立幌延中学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等第1、3学年
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・性の多様性について考えることをとおして、生徒同士が互いのよさに気付き、自己と他者の違いを認識し、個を尊重する心を育む。
- ・自分らしさ、自分自身を大切にしようとする態度を育む。
- ・教職員がLGBTQの存在を認識した上での学校教育を推進していくことを共有する。

実施した内容

- ・札幌市男女共同参画センター等を訪問し、男女平等についての講話を聞く。（1時間）
- ・調べ学習や関係機関の訪問等をおして、学んだことをまとめ交流し、町のこども議会で町全体として、取り組んでほしいことを考え、議会で質問する。（5時間）
- ・学習の成果を第3学年が校内で発表し、LGBTQについて考えを共有した。（1時間）

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・事前にLGBTQに関わる文献や参考資料を関係機関等から取り寄せ、調べ学習の際に正しい情報入手できるようにした。
- (関係機関との連携)
- ・指導する教職員の知識を高めるため、宝塚大学の日高教授に講義をしていただいた。
 - ・LGBTQに係る探究活動に取り組む生徒に対して、日高教授から助言をいただいた。

他教科との
関連

- ・技術・家庭の衣生活に係る学習で、制服の内容を取り上げ、LGBTQを関連させた授業を行った。
- ・特別活動「性に関する指導」で性的指向、性自認について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「自分や他者の人権が侵害されたときに、そのような対処の仕方があるのを知っている」と回答する生徒の割合が77.5% (+17.5) になった。
- ・価値・態度的側面：「様々な価値観を尊重しようとしている」と回答する生徒の割合が97.5% (+4.1) になった。
- ・技能的側面：「相手の悩みや気落ちを、相手の立場になって受け止めることができる」と回答した生徒の割合が97.5% (+8.6) になった。